

二重螺旋の家

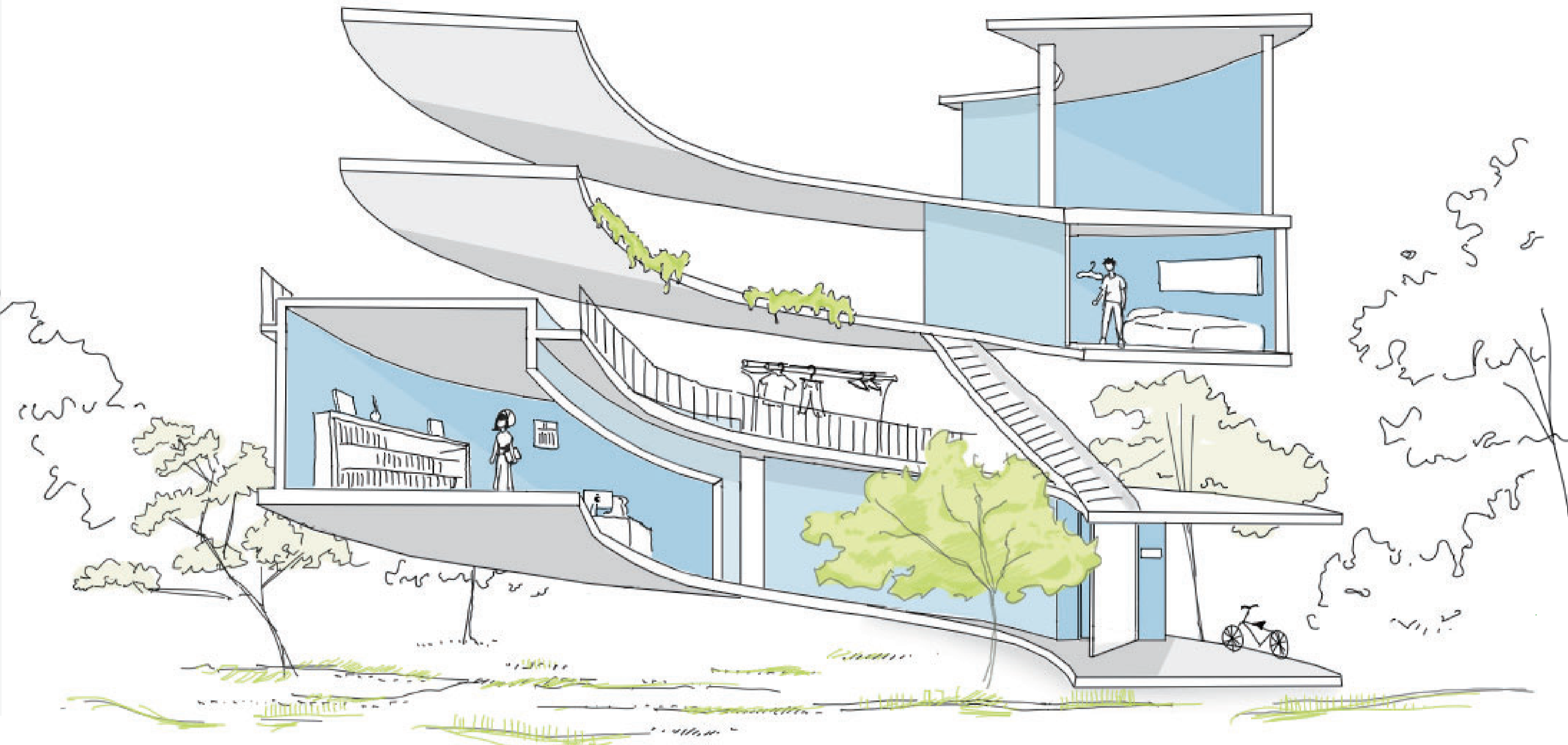
コンセプト

二重螺旋の構造を用いて住人の動線を分離し、一方通行とすることで、「すれ違わない」という「触れない家」を提案する。

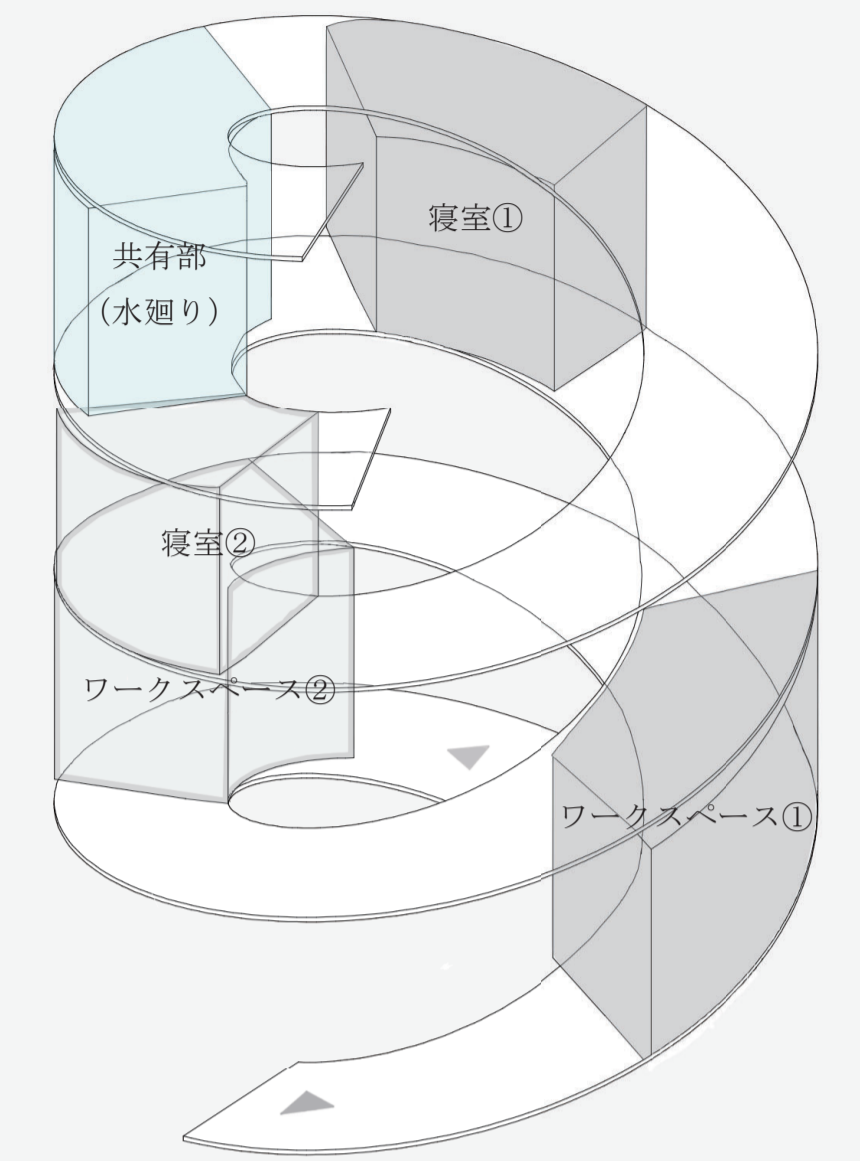
螺旋状の動線を軸とした生活空間で住まうことで、互いの生活空間が交わることはない。しかし個人の執務空間、寝室が対角に位置することで、起床時から就寝までの時間軸における生活の流れが常に対面にある。

その中で、互いの生活行為の場を保ちつつ両者が見る見られる関係に位置し、シーケンスの移り変わりとともに、互いの存在を認識することが可能となる。

決して互いの動線は交わらない（＝触れない）ながらも、螺旋上の相手の存在を認識する（＝触れる）ことを「触れない家」とした。



ダイアグラム



二重螺旋の構造により、個人の「ワークスペース」と「寝室」が対角に位置する。また、途中でスラブを入れ違えるように階段で一つ上のスロープに上がることで、単調ではない動線計画とした。

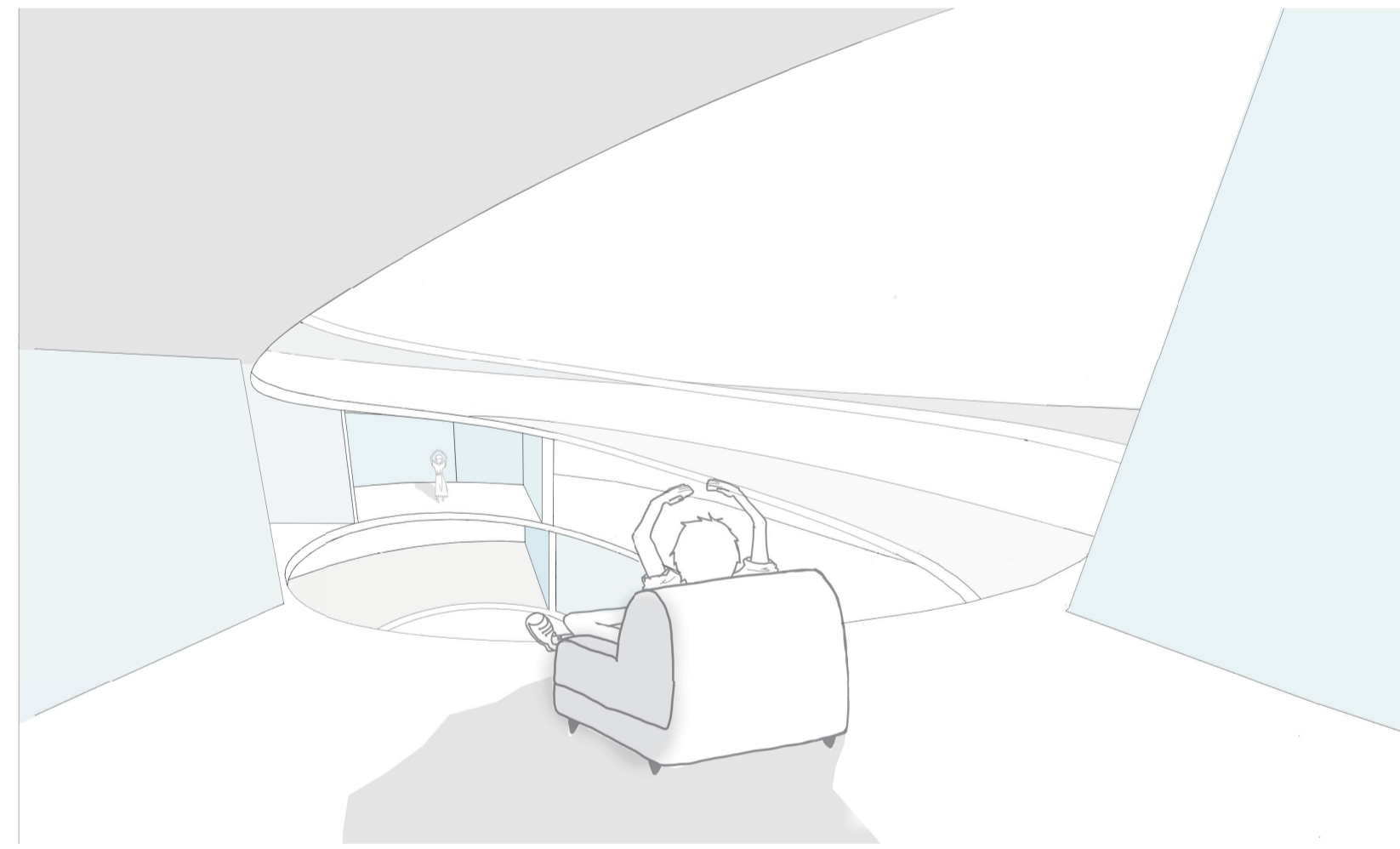
住人設定

本住宅の住人は、共に在宅の仕事をする二人の夫婦である。

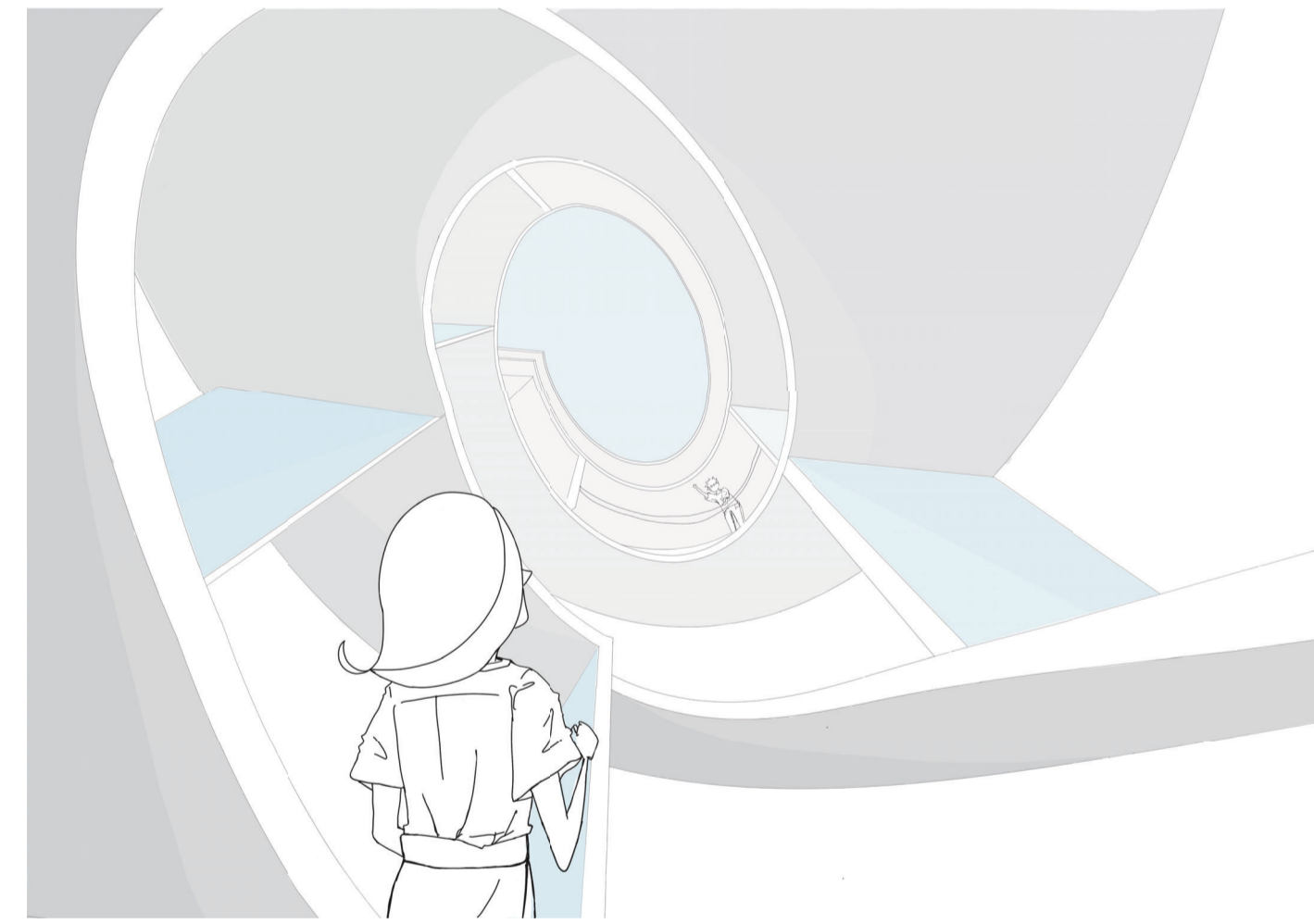
- ・夫 (WEBクリエイター)
- ・妻 (イラストレーター)

敷地

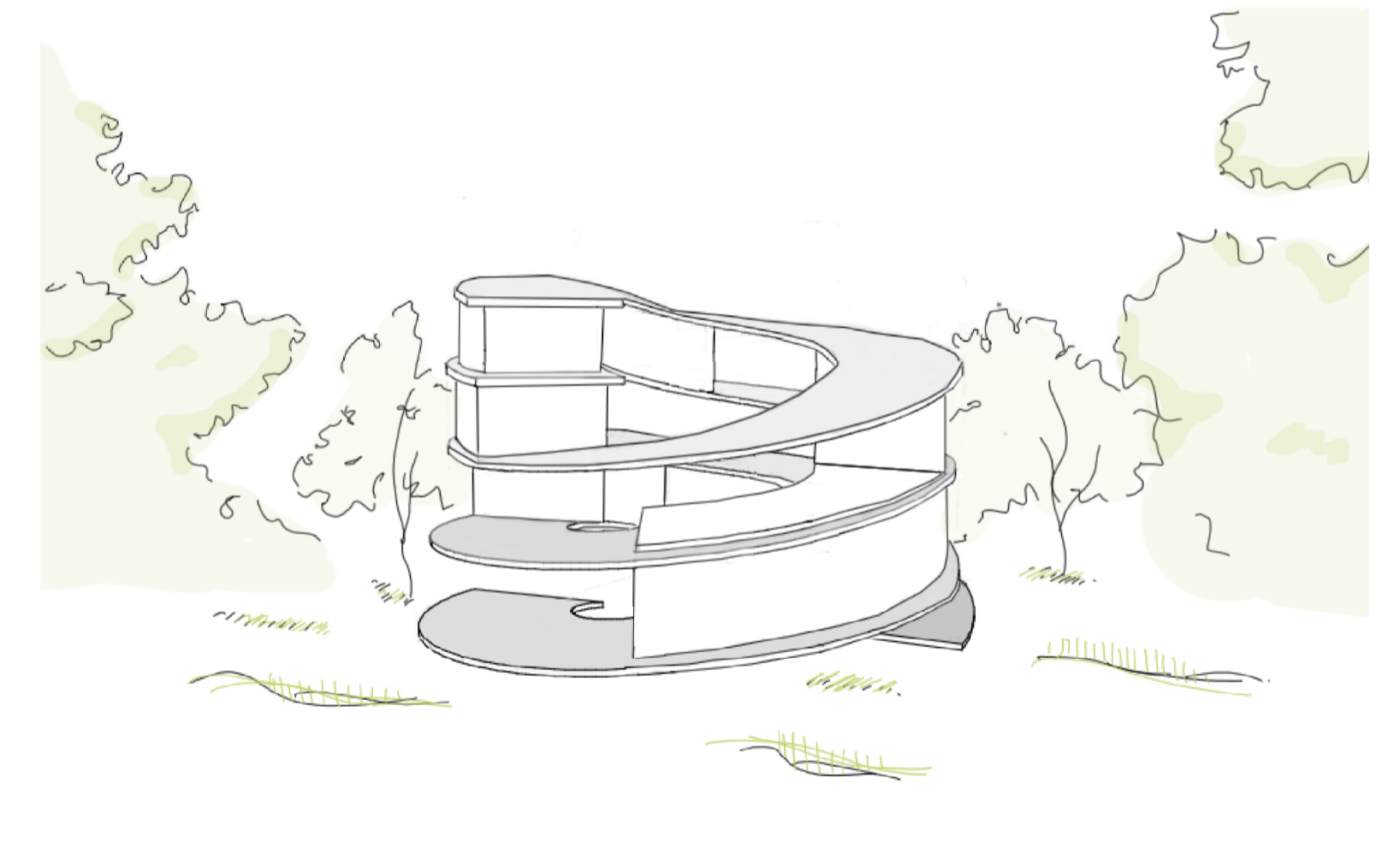
本住宅が建つ敷地は、広島県廿日市市に位置する山間部を想定している。



3階寝室から対角線上のもう一方の寝室を見る。生活の場の移り変わりとともに、互いの存在を共有する。



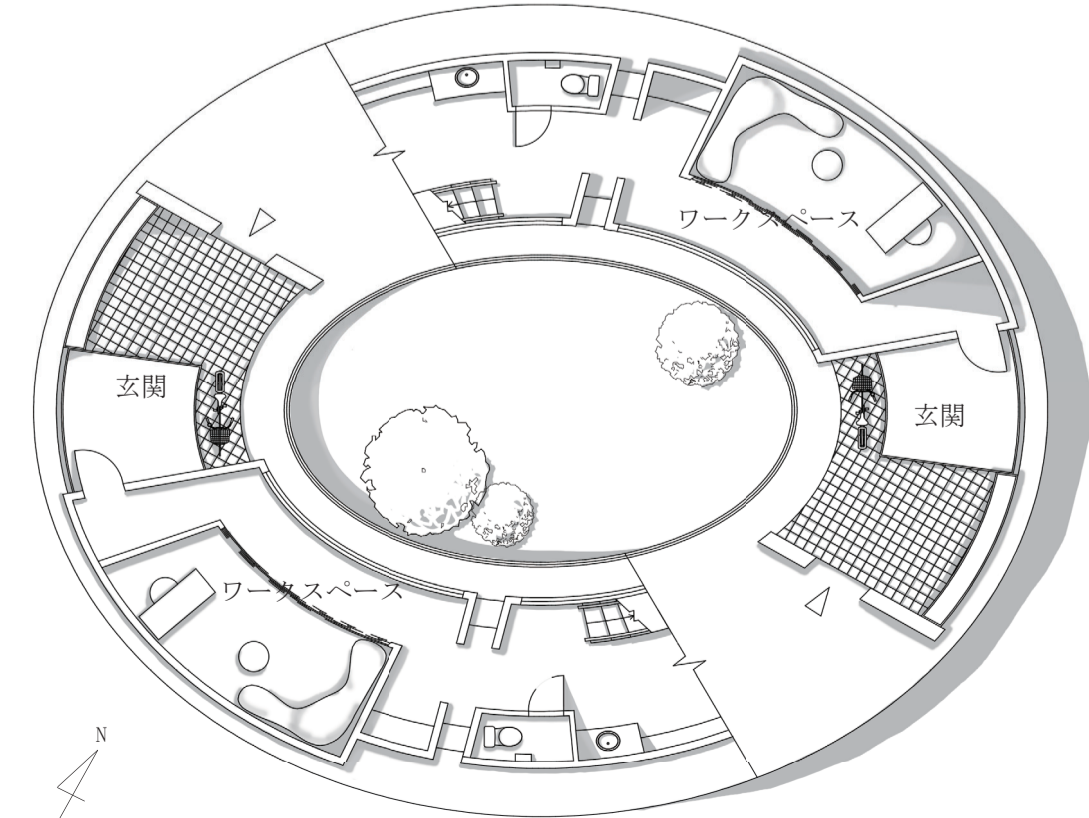
1階中央の中庭から、建物上部を見上げる。住宅内でのアクティビティが垣間見える。



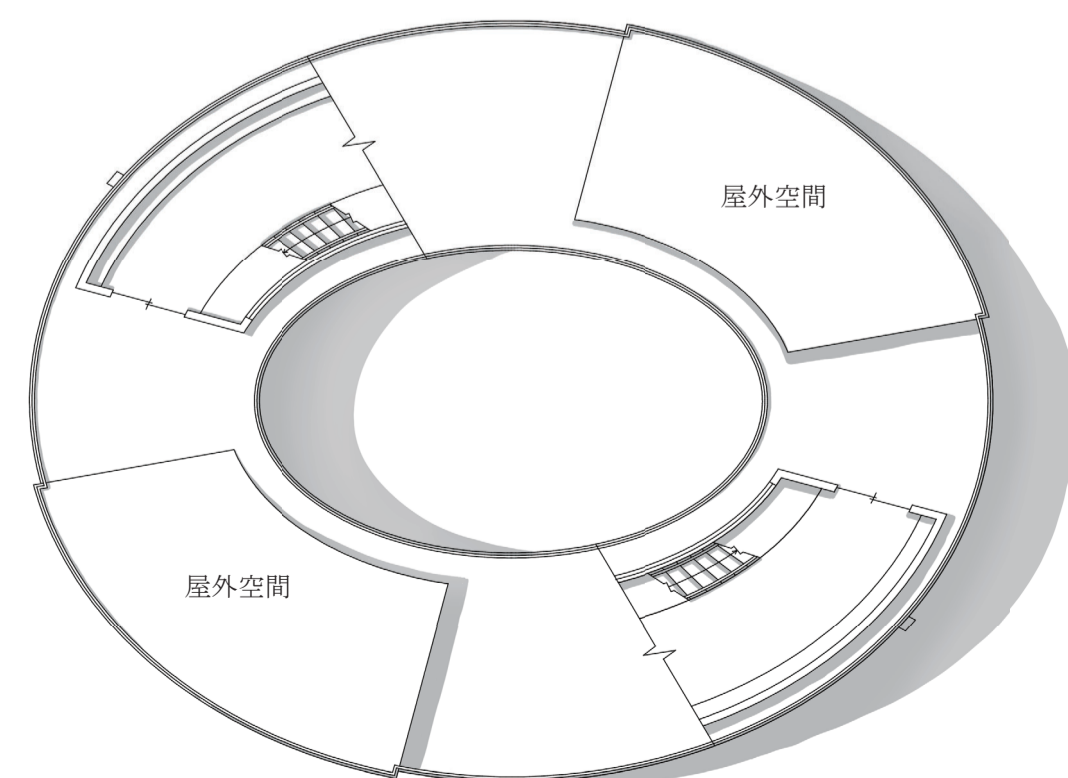
敷地西から住宅を眺める。様々なボリュームの諸室がスロープの間に組み込まれている。

平面計画

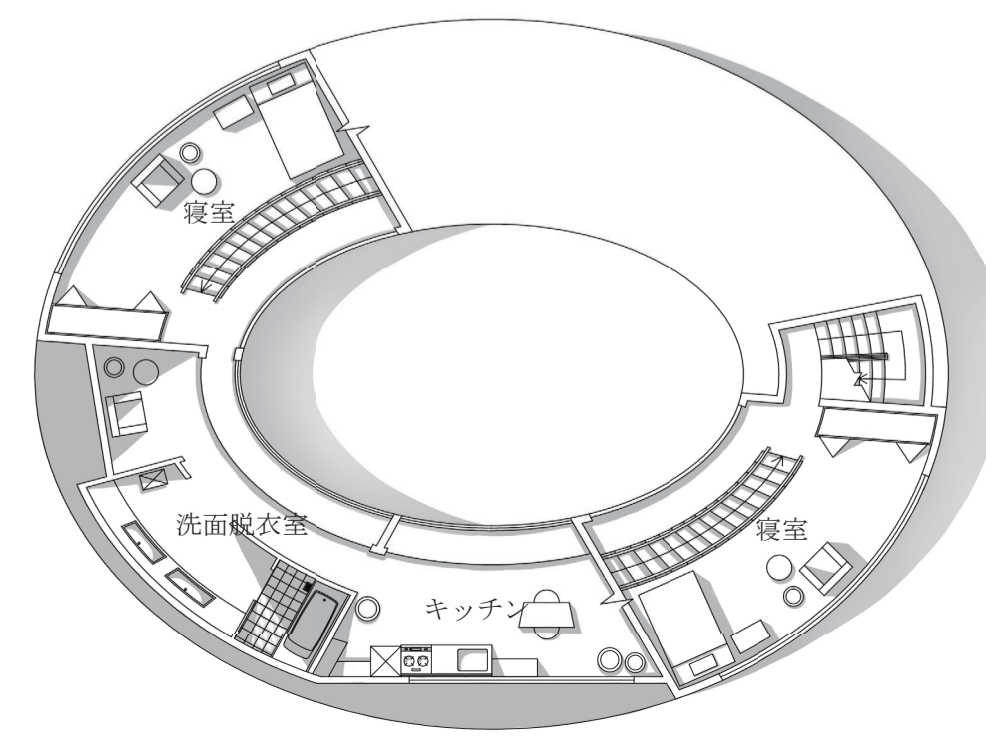
この住宅では、二人の住人それぞれに専用の玄関が設けられている。スロープに沿って進むと個人のワークスペースが用意されている。ワークスペースを抜けると互いのスロープを入れ違えるかのように、階段で一つ上のスラブへと上がる。最上階には共有部として洗面脱衣室、浴室、キッチンなどの水廻りを配置した。二人が交わる場所には衛生設備を設けて一種のフィルターのような媒介的空間に仕らえた。最上階からはもう片方の個人空間へとつながっており、一筆書きの動線で住宅が構成されている。



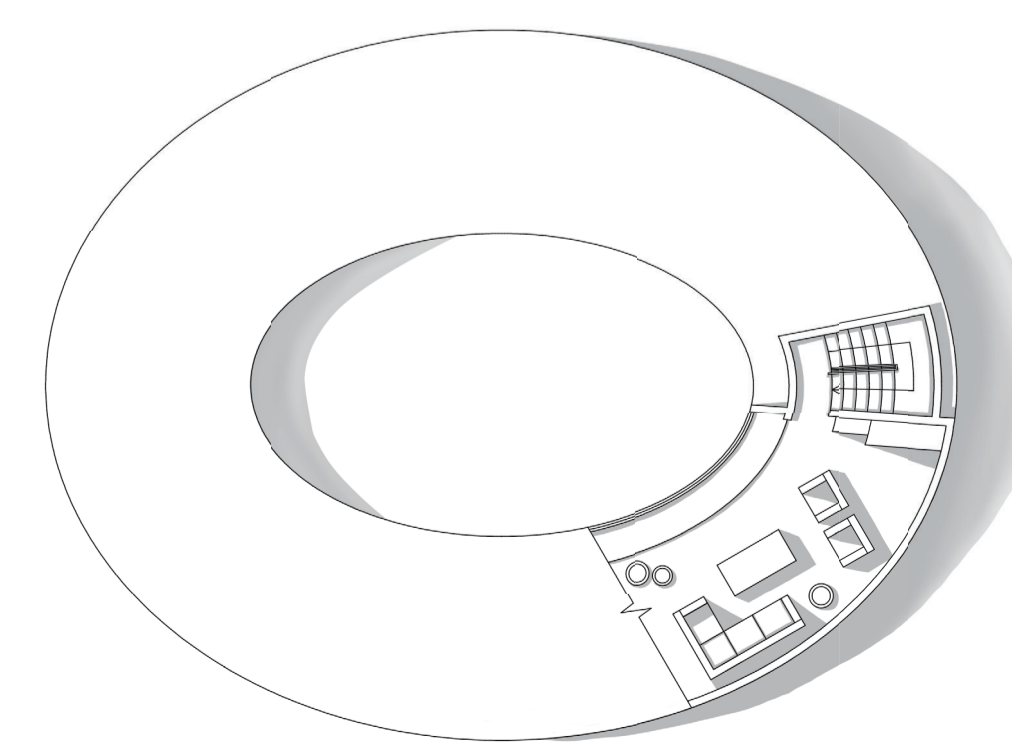
1階平面図 S=1:150



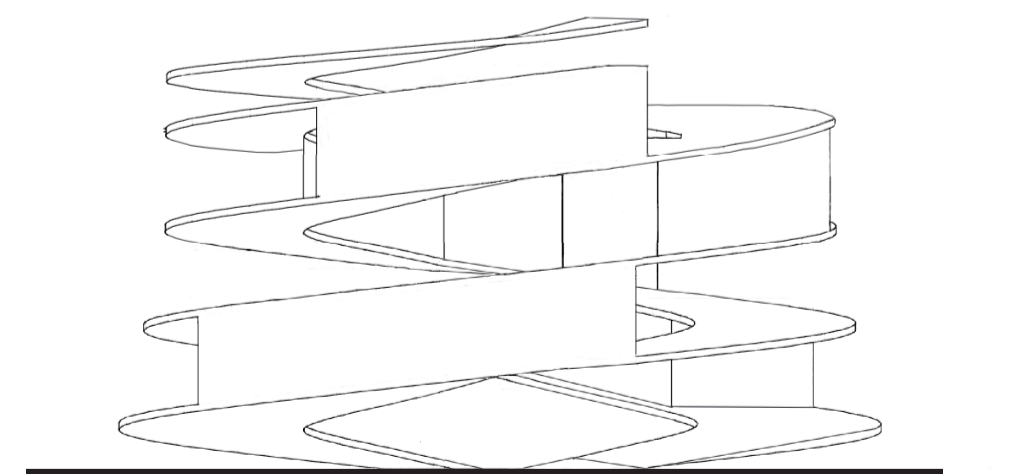
2階平面図 S=1:150



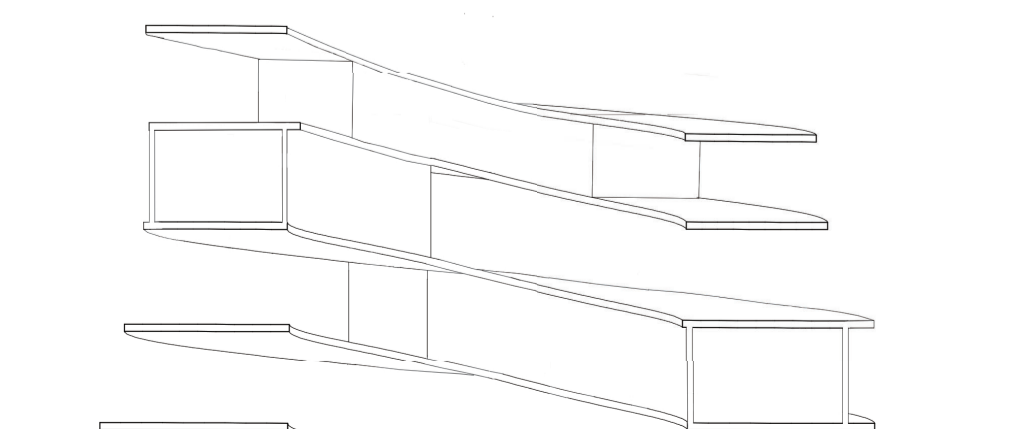
3階平面図 S=1:150



4階平面図 S=1:150



南立面図 S=1:150



X-X'断面図 S=1:150